

理学専攻 M2 アンケートの集計と分析

このアンケートは平成 23 年度 3 月に修了した自然科学研究科理学専攻の大学院生を対象としたアンケート調査である。アンケートの回答結果は、理学専攻および理学科の教育システムの改革や改善向上のために活用する。全対象院生からのアンケート回答回収を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。アンケート回答提出については学科会議においても各研究室担当教員に口頭で依頼した。

提出期限: 2012 年 2 月 17 日 (月)

提出場所: 理学系教務係

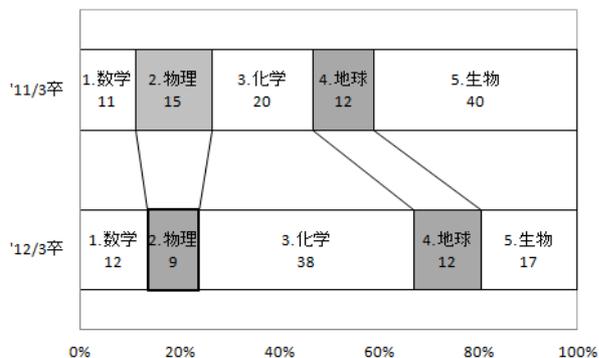
結果、88 名から回答を得ることができた。回収率は 84%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。

あなたの研究分野は何ですか

- 1. 数学 2. 物理学 3. 化学
- 4. 地球科学 5. 生物学

アンケート回答者数の分野ごとの数値である。

昨年度と異なり、化学の修了生が非常に多いのが特徴である。



A. 入学時の志望理由について

(A1) 入学時に熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻を選んだ理由を記述して下さい。

枠内はこの質問に対する全意見。以下の枠も同様。

- 卒業研究の継続が可能であるため。(18名)
- 学部が本学であったから。(8名)
- 専門分野をより深く研究したいと思ったから。(8名)
- 専門の知識をより深く学びたいと思ったため。(4名)
- 学部の頃と同じ先生の下で学びたいと思ったから。(4名)
- 大学での研究をもっと続けたかったから。(3名)
- 熊本という地にちなんだ研究をさらに深めたかったから。
- 学部時に自分の研究分野についての知識が無くもっと深い学習がしたかったことと、自分自身の研究をある程度終結させたかったからです。
- 今後の地球環境の変化に非常に興味があり、以前専攻していた物理を応用できるため、地球内部構造の研究ができる自然科学研究科を専攻しました。
- 水文学を学びたかったから。
- 自分の興味のある分野が存在し、追求していくだけの施設や機械が整っており、自分の夢を叶えられると思ったから。
- 古生物学を研究したいと思ったから。
- 3, 4年次に地球環境プログラムに所属しており、そのまま研究を続けたかったため。
- より専門的に数学を研究したかったからです。
- 自分のしたいことができるから。
- より高い数学の専門知識を身につけ、将来の職業に生かそうと思ったから。
- より詳しい専門分野を学ぶことにより、知識を深め今後の授業の内容を良くするため。
- 学部では卒業論文がないため、修士論文を書き、しっかりと勉強しようという思いで志望しました。
- もう少し深く数学を勉強したかったことと、論文を書いてみたかったから。
- 学部が熊本大学で、4年生のときにやった内容が中途半端に終わってしまい、もう少し詳しくやりたいと思ったから。
- 物理に興味があったため
- 研究内容に興味があったため。
- 熊本大学で生物を専攻していたので、そのまま同じ研究を行うため。
- 熊本であるため。理学だけでなく工学系の知識も身につけ卒論テーマをもっと幅広い視点で研究が行え、よい修論実験ができると思いました。
- 学部時代に行っていた実験の区切りを自分の手でつけたかった。
- 実家からあまり遠くなく、学力にあった生物を学ぶことが出来る場所だったから。
- 熊本大学理学部を卒業し、同学校の院に進むことは環境の変化をとまわず、研究に打ち込めると考えたため。

- 卒業研究でやったテーマを完成させるため。また就職活動のため。
- 希望する研究内容と研究室の研究が一致したため。
- 在籍研究室の研究に興味があったため。
- 現研究室で研究するため。
- 高校の恩師に勧められたため。
- 行いたい研究分野があったため。
- 地元の大学に理学部がなく、かつ、教師 1 年目の数学の先生が熊本大学理学部出身だったから、その先生の話聞いて熊本大学にしました。
- さらに上のレベルで化学について学びたかったのはもちろんのこと、様々なことを勉強して自己を高めようと思ったため。
- 化学に興味があったから。
- 熊本大学で大学生活を 4 年間送り、勉強する環境や先生方が自分にあうと思ったため。
- やりたい研究があったから。
- 先生にすすめられたから。

多くあった意見をまとめると以下のようなになる。

研究を深めたい(継続したい) 43 件

学部が熊大だから 11 件

研究内容に興味がある 7 件

学部と同じ先生に学びたい 5 件

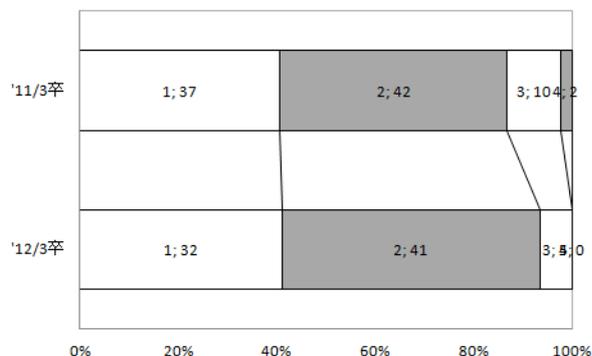
自分の研究をまとめたい 4 件

B. 教育・研究について

熊本大学理学部理学科を卒業された人に学部での授業や制度についてお聞きします。(該当しない人は次ページの質問 (B7) に進んで下さい).

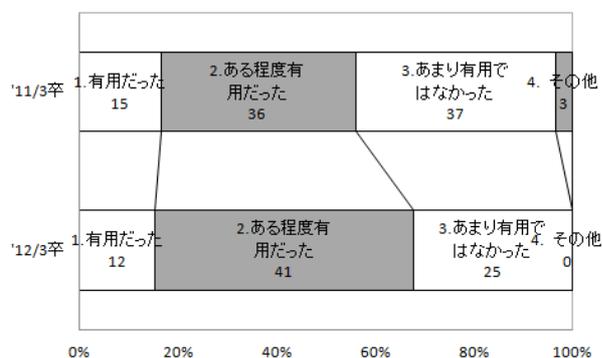
(B1) あなたの専門分野に関連する学部の専門科目は、大学院進学後の学習・研究に有用でしたか。

1. 有用だった
2. ある程度有用だった
3. あまり有用ではなかった
4. その他



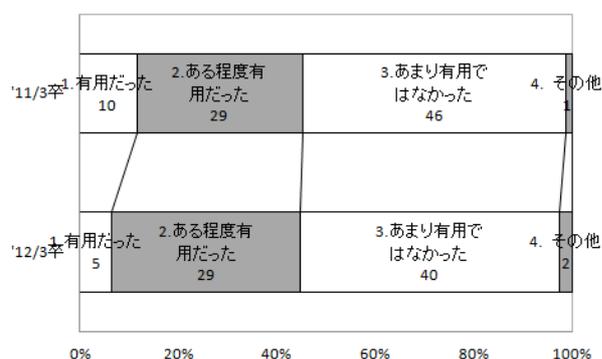
(B2) あなたの専門分野外の学部の専門科目 (専門基礎科目も含む) は、大学院での学習・研究に有用でしたか。

1. 有用だった
2. ある程度有用だった
3. あまり有用ではなかった
4. その他



(B3) 教養教育での学習は、大学院での学習・研究に有用でしたか。具体的な事例があれば、自由記述欄にお書き下さい。

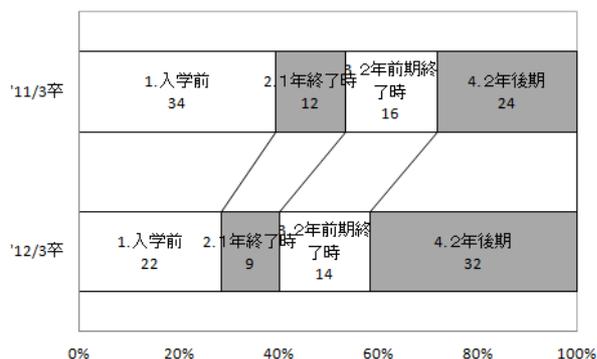
1. 有用だった
2. ある程度有用だった
3. あまり有用ではなかった
4. その他



専門分野に関する学部の専門科目は「ある程度有用だった」まで含めると有用だとするものが約9割となっている。一方、専門分野外の専門科目では6・7割程度になっている。教養教育に関しては、有用だったとする割合は4割程度である。

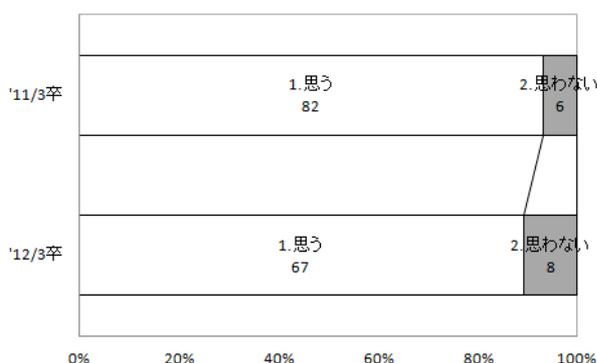
(B4) 理学科での専門分野はいつ決めましたか.

- 1. 入学前
- 2. 1年終了時
- 3. 2年前期終了時
- 4. 2年後期



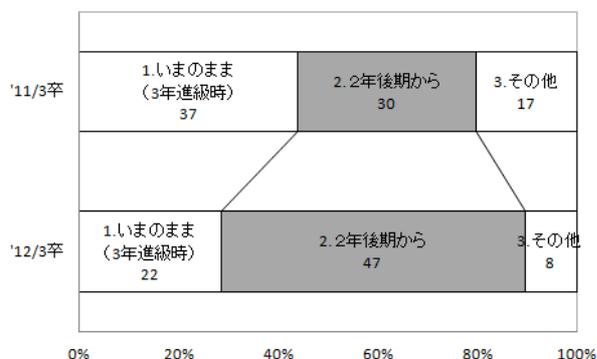
(B5) 今かえりみて、専門分野の選択は自分にとってよかったですか.

- 1. 思う
- 2. 思わない



(B6) 現在、3年進級時に教育プログラムを選択していますが、今かえりみていつがよかったですか.

- 1. いまのまま (3年進級時)
- 2. 2年後期から
- 3. その他



今年度に関しては、専門分野を決めた時期で「2年後期」が4割に増えている。これが一時的なものなのかそれとも今後継続するのか経緯を見守る必要がある。専門分野の選択に関しては、定員を設けていないためか、ほとんどの院生が満足している。しかしながら、1割程度の院生が「思わない」としていることは、理学部のシステムから考えると、比較的多い数字かもしれない。

選択の時期が何時が良いかという問については、「2年後期から」が非常に多くなっている。これも今後の推移を見守る必要がある。2年時に「ゆとり」があり、もっと早くしたい、という気持ちになっているのではないだろうか。

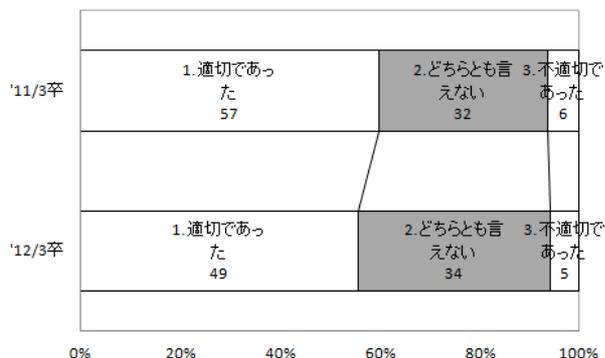
(B1) ~ (B6) に関する自由記述 :

- やはり専門分野の学習をするタイミングをやや早めた方がよいと感じた。
- B5、就職面での格差を感じます。
- B3,語学、専門以外のことも知れるのでよい。 B6,専門を学ぶのが少し遅く感じてるので！
- 専門を最初から決めていたので、早くから専門に関する勉強に入りたかった。
- B6:もっと早く
- 最終的には何処かの研究室に所属し卒業研究を行うことになるので、研究室ごとに履修しておかなければならない科目を示しておくべきだと感じた。そうでないと自主編成プログラムの時に研究室に入るために条件があったら受け入れられない。
- 教育教養を学ぶことで、大学院で、科学的な視点ばかりでなく、幅広く考えることができた。(生命とは何か?みたいな感じ)
- 教養教育などの内容自体は大学院での学習や研究に活かされる場面はほとんどなかったと思う。しかし、興味の幅が広がったという点では有用だったと思う。就活などで研究ができない時期があるので、早めに自分の研究に携われる環境があるとよいと思う。(3年前期での研究室配属など)
- 2年次以降専門分野以外の科目を選択について、勉強でなく個人の自由であるところが良いと思う。
- (B6)2年前期
- (B6)入学時から
- 早い方がよい。地学と生物を学ぶ意味がわからん。
- 入学時に化学を専攻したいと考えていましたが、生物にも興味を持っていたので2年次まで化学と生物を学ぶことができたのは大変良かったです。しかし、その分化学における専門性について不安があります。
- 専門分野の選択は、出来るだけ早い時期が良いと思う。早い方が、より深く専門分野を勉強する機会が多くなるから。
- 理学部理学科という制度は好きですが、各分野が独立しすぎ、他分野との関連をほとんど持っていないので上手く生かしてないような気がします。学部の授業でも、多少は他分野を関連づけて授業を行えば、面白くなるのではないかと思います。
- (B6)具体的な時期はわかりませんが、もう少し早めた方がよい。他大学生と比べて専門分野の知識が浅くなる。
- もっと早い段階から、専門的な授業をしてよいと思う。
- (B3)全くもって有用ではなかった。→レベルが低すぎ、大学でわざわざする必要性が皆無だと感じている。(B6)1年後期もしくは2年前期から→専門性の向上がされにくい。特に1年生の講義は高校の復習でしかない。むしろ必要性が皆無。

自然科学研究科での授業についてお聞きします。

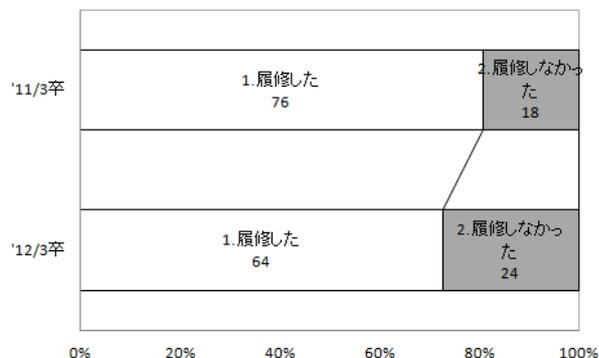
(B7) 必修科目数と選択科目数の割合は適切でしたか。
具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 適切であった
2. どちらとも言えない
3. 不適切であった



(B8) 理学専攻で他大学等の先生の集中講義を履修しましたか。履修した場合は、科目数もお書き下さい。また、集中講義に対して具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 履修した (科目数：回答数 64 件)
2. 履修しなかった



集中講義は7割以上の院生が履修しており、大学院教育の重要な部分を担っていることがわかる。科目数としては1-3科目と答える学生が多い。集中講義の単位の取りやすさが反映されているかもしれない。

(B9) 大学院の授業の中で特に有意義であった授業を挙げて下さい。

- 有機化学 V 4名
- 有機化学 IV 2名
- 有機化学
- 化学特別研究 3名
- 高分子 2名
- 高分子化学 IV 2名
- 数論 2名
- 微分方程式 I, II 2名
- 地球物理学、MOT
- 火成作用特論
- 水分気象学特論
- 地球変遷学特論

- 確率過程論、群論、複素解析学 I, II
- 物理科学特別研究
- 先端科学特別講義
- 微小領域物性物理
- 量子光学、光物性
- 量子光学 I . II
- 固体物理学
- プロジェクトゼミナールで様々な研究をされている先生のお話をきけたのは有意義だったと思います。
- 総合科学 A-10 (バイオマスエンジニアリング) 2名
- 理学特別講義 B10
- 発生工学 II
- 発生系の講義全般
- 他研究室の先生方の授業
- 物理化学 V
- 物理・無機化学系の授業
- 無機化学 II
- 無機化学
- 無機化学IV、環境解析化学 I
- 電子素子工学特論第一、ナノ構造デバイス工学
- NMR の授業は役に立ちました。実際に、有機物を合成し NMR で確認した時など実用性があった。
- NMR 解析の授業が特に有意義でした。
- ゼミ
- 全英語の授業は語学学習にもなって良かった。
- 教育学概論
- 環境科学 I, II, III、英語でのコミュニケーションは必要であるし、今後必要とされるスキルの 1 つだと思う。
- 哲学
- プレゼンテーションをする授業は有意義であったと思います。
- 集中講義 (2 件)
- JAXA から外部講師がきたときはとても刺激的でした。
- 専門はすべて
- 授業はそんなに受けていません。
- なし 3 件

化学専攻の修了者が多かったことを反映してか、化学系の授業が多く挙げられている。

(B10) 博士前期課程 2 年生で授業（特別研究やゼミナールを除く）を何科目履修しましたか。

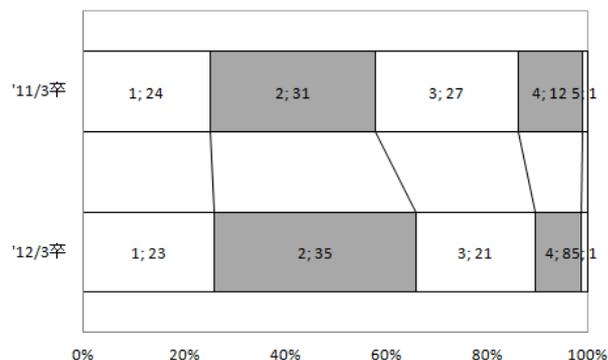
科目数： 科目（うち集中講義 科目）

回答数 58 件

科目数としては 1-2 科目の学生が 4 割に達する。集中講義に関しても 1~2 科目の学生が多く 9 割に達している。

(B11) 博士前期課程のカリキュラムは如何でしたか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足



今年度は「どちらかといえば満足」を含め満足と感じている学生が 6 割を越えている。「どちらとも言えない」という回答を更に減らしていく必要がある。

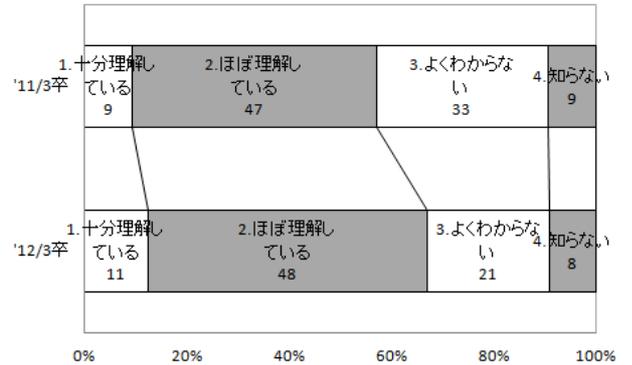
(B7) ~ (B11) に関する自由記述：

- 他大学の先生の話は新鮮で有意義でした。
- B9,他大学の先生の方が丁寧な講義です。本学の先生の方が質問はしやすいです。授業しないで単位が与えられる講義もありました。
- 多様性に関していうなら、他分野の話をもっとききたかった。
- 必修と選択をきちんとわけてほしい（選択のはずが、必須といわれ、混乱する）
- (B11) 11 年度のプロジェクトゼミナールの授業が多いように感じた。
- 社会人学生にはどうしても履修し難い授業があるので、受けたくても受けられない事があった。
- 単位取得や卒業要件があいまいである。先生 or 事務がしっかりしてほしい。
- 1 年生のうちに、卒業に必要な単位数をみたすことのできるカリキュラムが良かった。
- (B11)1 年次に授業や TA で多くの時間がとられて実験に集中できなかった。
- 自分でもっと積極的に語学の授業等を履修しとけば良かったと思う。
- (B11)必修科目が多すぎる、研究に割く時間が圧迫され、帰る時間が深夜になることが多々あった。

自然科学研究科の教育全般についてお聞きます。

(B12) 自然科学研究科の教育目的「総合的視野のもとに問題を解決し、広い分野で活躍することのできる高度専門職業人として育成する。」は理解していましたか。

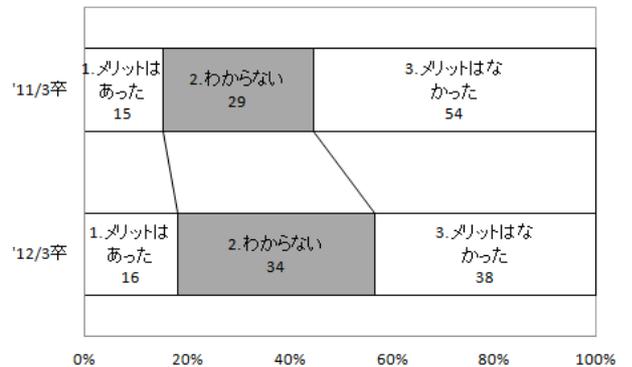
- 1. 十分理解している
- 2. ほぼ理解している
- 3. よくわからない
- 4. 知らない



「ほぼ理解している」までを入れると 6 割を越えるが、一方で、「よくわからない」もある程度存在しており、今後も周知徹底などの対策が必要である。

(B13) 自然科学研究科は理学系の専攻と工学系の専攻からなる融合型の研究科ですが、その事のメリットはありましたか。

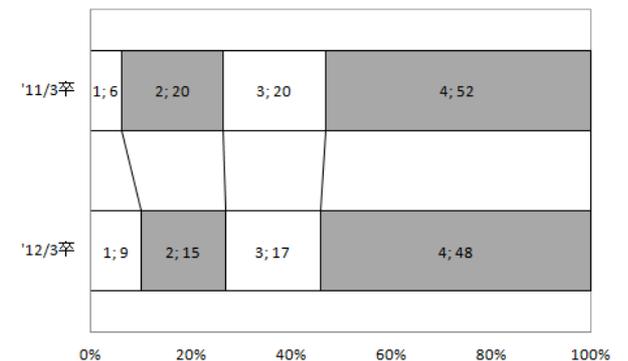
- 1. メリットはあった
- 2. わからない
- 3. メリットはなかった



「メリットはなかった」の率が減っているが、それでも 4 割を占めている。一方「メリットはあった」とする回答も 2 割存在しており、メリットを感じている学生もいる。

(B14) 工学系の専攻の大学院生との学術的交流はありましたか。

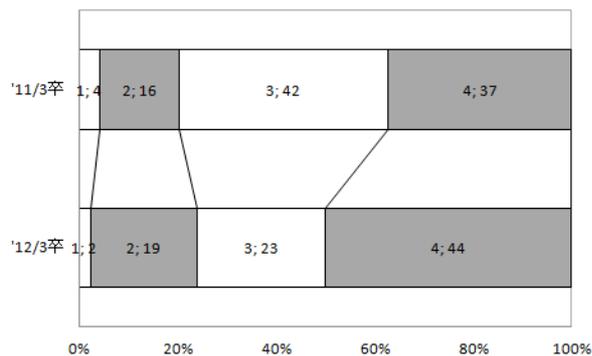
- 1. 工学系の大学院生と一緒に研究した
- 2. 工学系の大学院生と一緒に授業を履修した
- 3. 学術以外の交流があった
- 4. 全くなかった



(B15) 理学専攻の他コースの大学院生との学術的交流

はありましたか.

1. 一緒に研究した
2. 一緒に授業を履修した
3. 学術以外の交流があった
4. 全くなかった

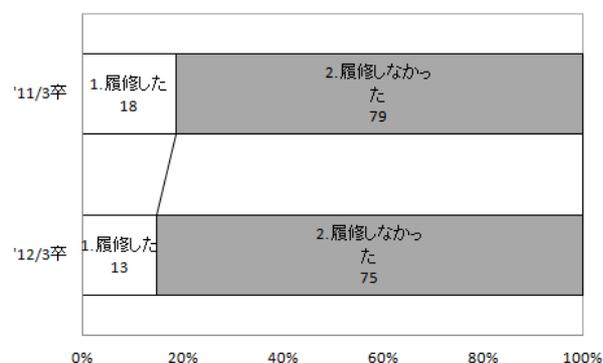


工学系の大学院生と何らかの交流がある院生が約 5 割となっている。同様に理学専攻の中でも他コースと何らかの交流がある院生は 5 割に留まっている。また、「一緒に授業を履修した」り、「一緒に研究した」ということになると 2 割に落ちている。今後の検討が必要かもしれない。

(B16) 他専攻（複合新領域専攻や工学系の専攻）の授業

科目は履修しましたか.

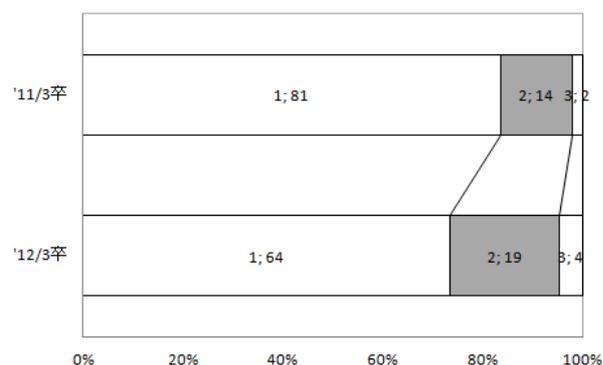
1. 履修した（科目数：回答数 12 件）
2. 履修しなかった



他専攻の授業を履修した院生は少なく、実質的に専攻を超えた授業の履修は行われていない。

(B17) 全専攻共通科目のうちコース指定のない科目（プロジェクトゼミナール、特別プレゼンテーション、科学英語演習など）は履修しましたか.

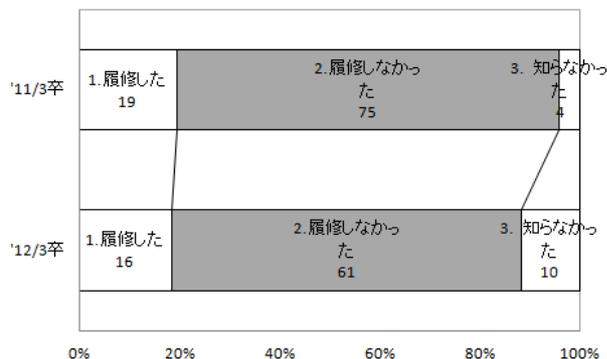
1. 履修した（科目数：回答数 58 件）
2. 履修しなかった
3. 知らなかった



7 割以上の院生が履修しており、プロジェクトゼミナールの履修などが定着していると思われる。

(B18) 全専攻共通科目のうち産官学連携、国内大学院連携、国際共同教育、MOT（総合科学 A～C など）は履修しましたか。

1. 履修した（科目数：回答数 15 件）
2. 履修しなかった
3. 知らなかった

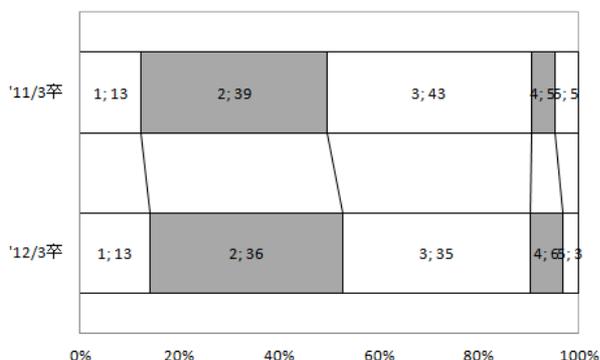


(B17)と対照的に履修した院生の割合は約 2 割となっている。理学専攻におけるこれらの科目の履修者は少ない。

(B19) 自然科学研究科の全面英語化計画（グラシウス計画）による授業の英語化について意見をお聞かせ下さい。

（複数選択可）

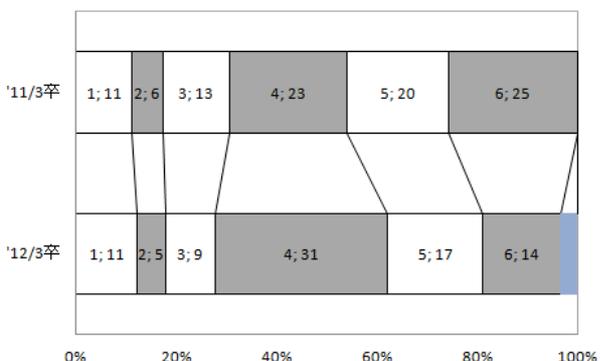
1. 全て英語が良い
2. 専門用語は英語が良い
3. 基礎的な内容は日本語が良い
4. 全く必要ない
5. その他



「基礎的な内容は日本語が良い」とする院生が多い一方で、3 割強の院生が「専門用語は英語が良い」と答えており、大学院教育における英語の使い方について教育上効率的な方法を模索する必要があるだろう。進路によることが予想される。例えば、研究者なら英語が重要になるであろうし、教員なら日本語を正確に理解することが重要になる。

(B20) 学部・大学院の 6 年間の中で勉学意欲が最も上がったのはどの時期ですか。

1. 1 年次
2. 2 年次
3. 3 年次
4. 4 年次
5. M1
6. M2
7. その他

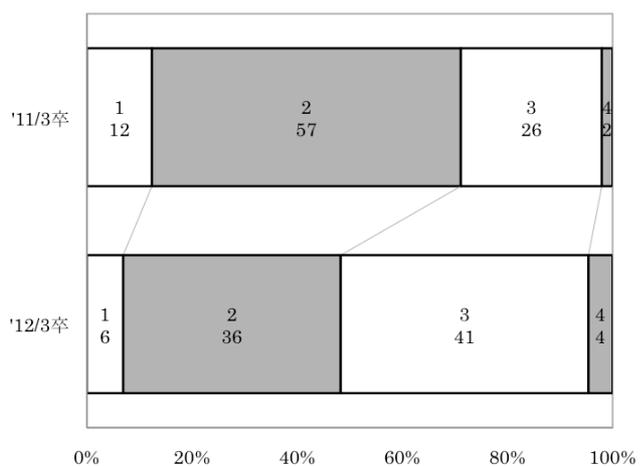


今年度に関しては、「4 年次」の回答が多い。また、修士課程で勉学意欲が上がる人も多い。やはり研究室で研究を行うようになってから、勉学意欲が上がっているものと思われる。この結果を踏まえた 1～3 年次の教育と 4 年～M2 の教育方法の検討が重要であろう。いつやっておけば良かった、という設問も必要かもしれない。

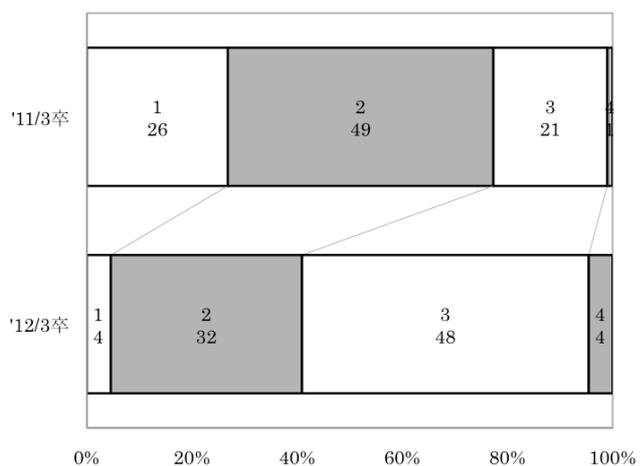
(B21) 学部・大学院の6年間の履修を通してどのような力が身に付いたと思いますか。それぞれの項目に関して、次の4段階で回答してください。

1. よく身に付いた
2. ある程度身に付いた
3. もっと身に付けたかった
4. 全く身に付かなかった

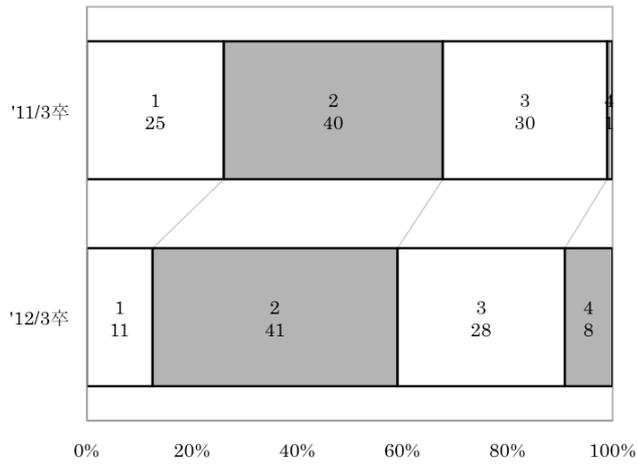
a. 教養・基礎学力：



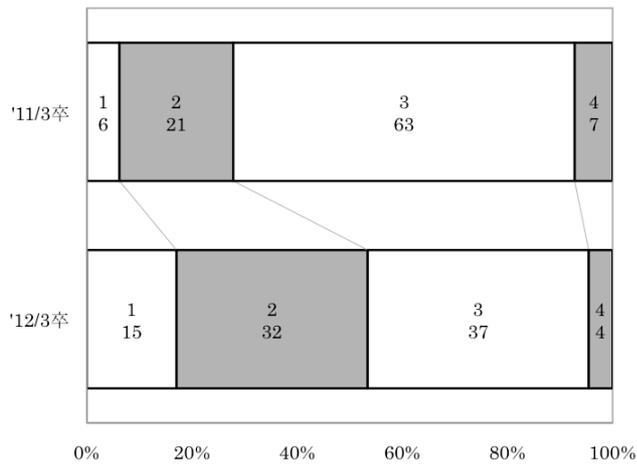
b. 専門知識：



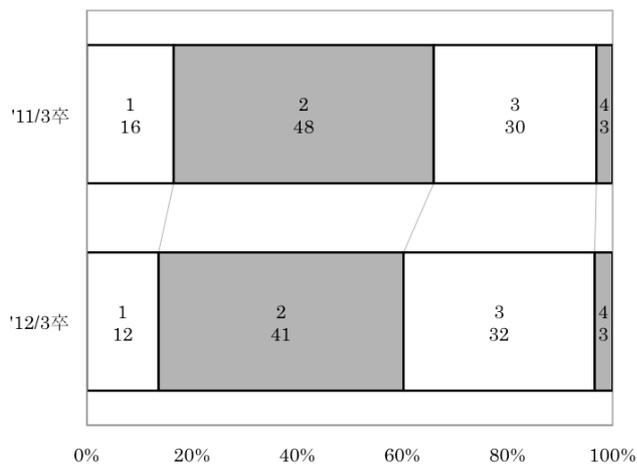
c. 技術・技能：



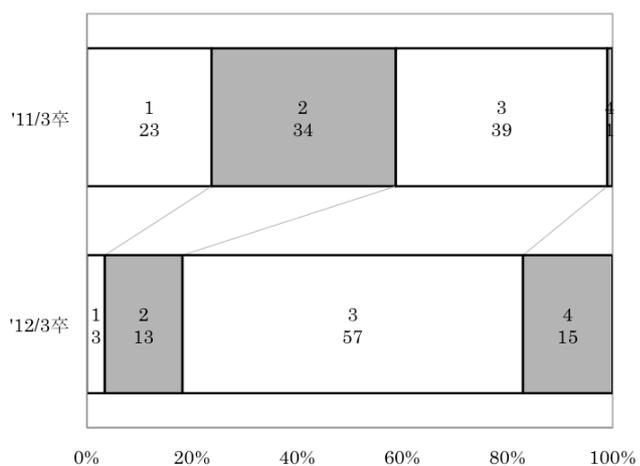
d. 英語を含めた外国語運用力：



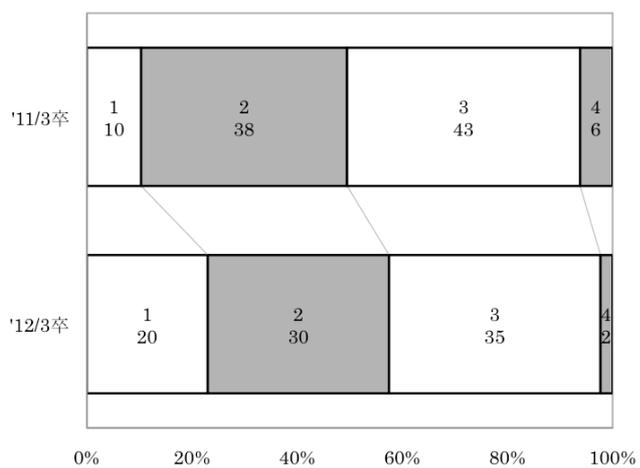
e. 一般的なコミュニケーション力：



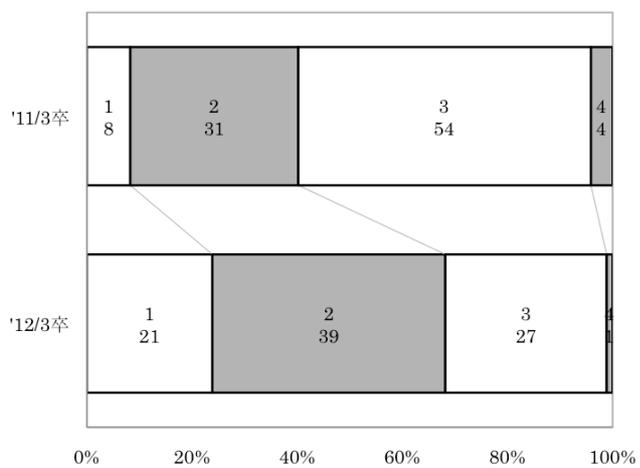
f. プレゼンテーション力 :



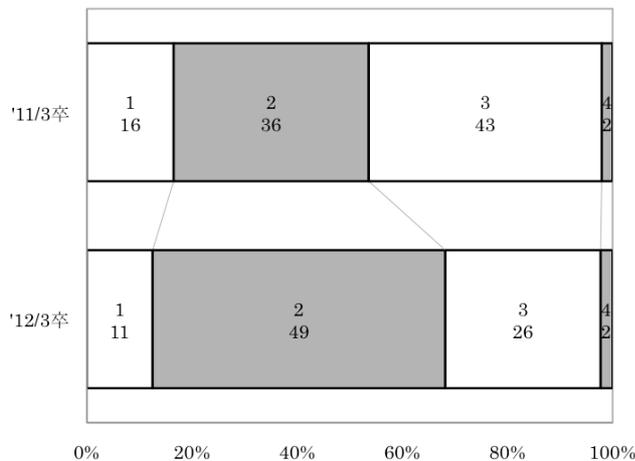
g. IT リテラシー・コンピュータ操作能力 :



h. 独創性・発想力 :



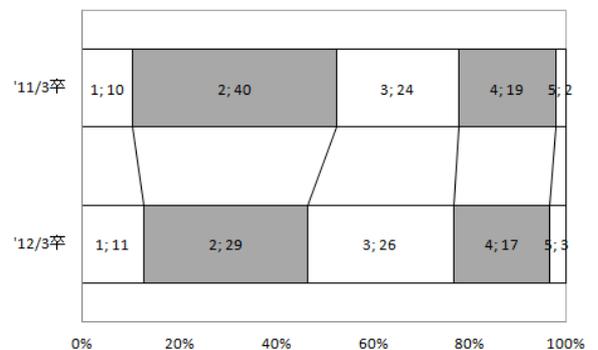
i. 課題発見・解決力：



昨年度と比べて特徴的なことは、教養・基礎学力、専門知識、プレゼンテーション能力について「もっと身につけたかった」とする回答が大幅に増えている一方、外国語運用能力、ITリテラシー、独創力・発想力、問題発見・解決力については「ある程度身に付いた」以上の回答が相当数多くなっていることである。これが、今年度の修了生におけるコースの偏り等によるものなのか、それとも他の要因によるものなのかははっきりしない。継続的に注視していく必要がある。

(B22)博士前期課程を修了するにあたり、理学修士としての専門能力が身に付いたと思いますが、自己評価として満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足



「どちらかといえば不満足」は2割弱ではあるが、満足している院生は半分弱であり、「どちらとも言えない」の割合が多いことが気になりである。満足度をあげるためには、もっと詳細な調査が必要になるかもしれない。

(B12) ~ (B22) に関する自由記述：

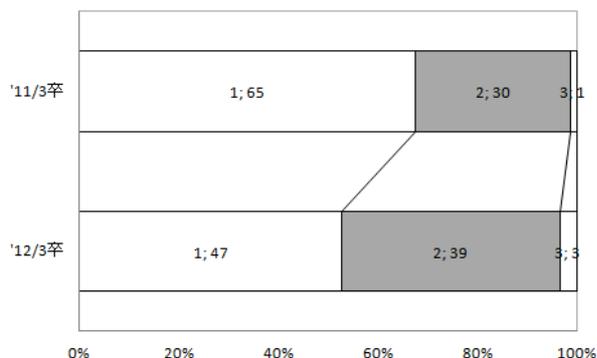
- B17,特に B18 に挙げる科目は時間がなくて受けられません。集中講義、休日の利用がいいです。
- B19,板書が英語というのは良いと思う。会話は日本語が良い。
- RNA 分子生物学研究室に所属することで、研究のやり方についてプレゼン力（←これについてはまだ不十分ですが）が身に付きました。

- 熊本大学の入試に英語がないため、大学に入っても英語が苦手なままであった。そのため、「自然科学研究科の全面英語化」というものが納得いかない。もしそうするのであれば、学部時代からもっと英語に力を入れるべき、しかし、学部卒で就職する方がいるのも事実。進学すると決めている人、英語をもっと勉強したい人は、授業に TOEFL, TOEIC などを取り入れた役に立つ授業をうけさせるべき。
- 博士前期課程に入ってから、自分の努力次第でもっと専門能力を身に付けることができたと思います。
- コミュニケーション力、語学力をもっと身に付けたかった。上記のようなものは自分で機会を見つけ得るものであるが、大学から与えてもらってもいいと思います。
- B21:力の抜き所が分かった。効率が良くなった？

修士論文の研究および研究指導体制やシステムに関してお聞きします。

(B23) 修士論文の研究に平均としてどれだけ費やしましたか。

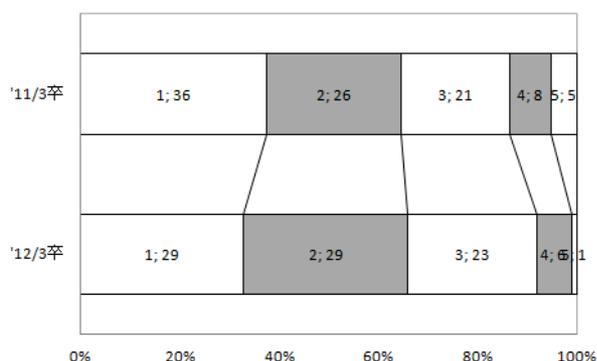
1. 毎日
2. 週の半分ぐらい
3. ほとんどしなかった



「毎日」とする学生が 5 割であり、残りの半分は週の半分以下しか研究に使っていない。また、「毎日」の割合が減っており、これが就職活動の長期化によるものなのか、それとも他の要因によるものなのかは詳細な検討が必要かもしれない。

(B24) 大学院での研究指導体制に対して満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足



「どちらかといえば満足」以上の回答が 6 割あるものの、「どちらとも言えない」との回答が増えており懸念材料である。不満足である理由も聞くべきかもしれない。

(B25) 研究を継続する上で役にたった項目（中間発表，学会発表，セミナーなど）があれば記述して下さい。

項目：76 件

- 学会発表 26 件
- セミナー(ゼミ) 19 件
- 中間発表 16 件
- 指導教官との面談 5 件
- 実験
- 第 8 回熊本大学フォーラム (ハノイ)
- 学外からの講師による集中講義及び座談会
- 教育者には指導している学生がなんでも言えるような寛容性が必要だと感じました。

- 中間報告を行うことで、自分の考え以外を取り入れることができ、役立った。
- 他の研究室と共同の実験室を使用したため視野が広がった。

中間発表や学会発表などの発表を挙げたものが多かった。セミナーおよびプロゼミも多い。発表することが研究に重要であることは伝わっているものと思われる。

(B23) ～ (B25) に関する自由記述：

- 自主勉強会は講師役にもなれ、自身の学習にも力が入り、大変充実していた。
- M2 の中間発表の時期は、少し考えなおしてもよいと思う。(どうしても就職活動とかぶり前回 (M1) が 12 月の終りで、半年しか経っていないため、新しくデータがでていない人が多いため)
- M2 の中間発表は意味がないと思う。ほとんどの人が就活をしており、研究できていなかったため、発表できるデータがなかった。そのため、ディスカッションもほとんどもりあがらなかった。
- 他大学の方々との交流は、研究のやる気アップに繋がりました。
- B23 については、社会人のためどうしても週 2 ～ 3 回、それも夜間の実験となっている。
- (B25) 専門外の人に説明しようとする、より基礎的な知識が必要になる。
- 学会に年 2 回程度参加することで、定期的に研究についてまとめ、また新しい課題の発見にもつながった。また、プレゼン力のなさを実感し、向上心が持てた。
- (B24) 他研究室との交流が希薄、最近は徐々に改善されつつあると思うが。

C. 修了後の進路について

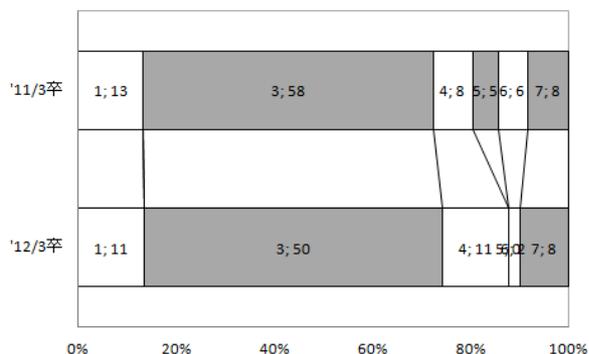
(C1) あなたの4月以降の進路は何ですか.

大学院博士後期課程へ進学

1. 熊本大学
2. 他の大学

就職

3. 民間企業
4. 教職（非常勤および臨時採用を含む）
5. 公務員
6. その他の就職先
7. その他（進学・就職以外）：8件



大学院進学者も一定数いるものの、民間企業に就職する院生がほとんどである。教職や公務員も大学院生の進路として一定数あることは、重要である。

(C2) 大学院博士後期課程に進学する人にお聞きします。進学をいつ決めましたか。

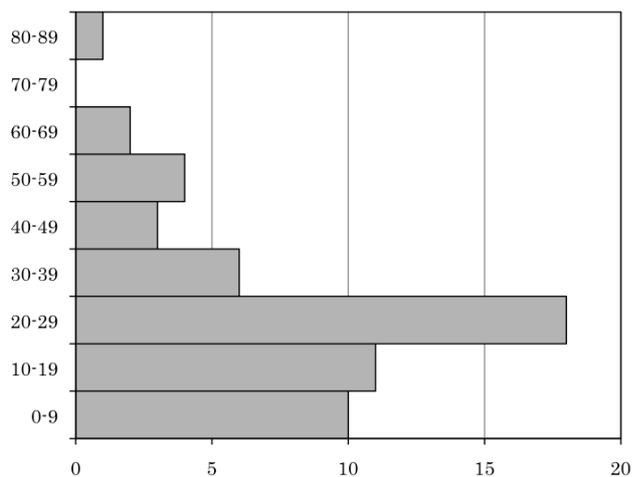
時期：13件

学部4年次が2件，M1が7件，M2が3件であった。既に社会人であるという回答も1件あった。

就職活動をした人にお聞きします。就職活動をしなかった人は(D1)に進んで下さい。

(C3) 就職活動（面接や企業訪問など）のため、企業を何回訪問しましたか。

回数：55件



ピークは20-29回にある。それ以上の院生もある程度数いるが、0-9回という院生も多い。

(C4) 就職活動をおこなった期間はいつですか.

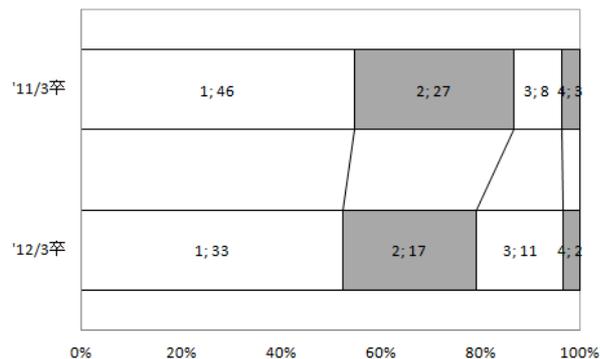
開始時期	人数
H22/1	2
H22/7	1
H22/8	2
H22/10	11
H22/11	6
H22/12	12
H23/1	14
H23/2	6
H23/3	3
H23/4	1
H23/6	2
H23/7	1

終了時期	人数
H22/5	1
H23/3	3
H23/4	7
H23/5	8
H23/6	10
H23/7	8
H23/8	6
H23/9	5
H23/10	2
H23/11	2
H23/12	4
H24/1	2
現在進行中	1

就職活動の開始時期は、M1 の 10 月から M2 の 1 月であることがわかる。一方、終了時期はもう少し広く分散している。遅い人では、M2 の年末や更に現在進行形の人もあり、就職活動期間の長期化が懸念される。

(C5) 就職活動のため、大学院の授業や研究に参加できないことによる影響はどの程度ありましたか。

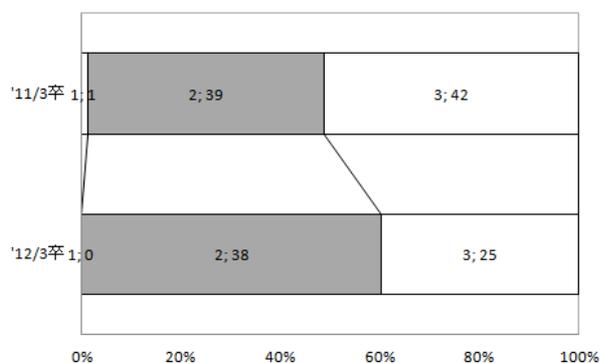
1. かなりあった
2. 少しあった
3. あまりなかった
4. 全くなかった



(C4)の結果からも明らかなように授業や研究に影響があるのは容易に予想される。実際、(C5)の結果は、「かなりあった」、「少しあった」で 8 割に達している。熊本大学だけではなく、日本の大学全体の大きな課題である。

(C6) 現在理学部では特定の企業に対して学部長推薦の枠もあります。利用しましたか。

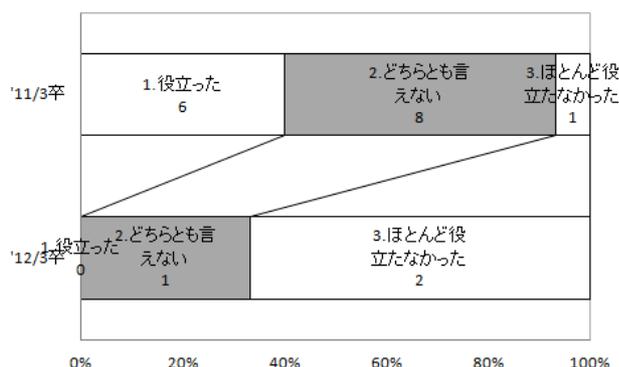
1. 学部長推薦を利用した
2. 学部長推薦があることは知っているが利用しなかった
3. 知らなかった



学部長推薦を利用した人は今年度はいなかった。今後も周知を徹底するとともに、就職支援の充実を進める必要がある。

(C7) 大学院で学外特別演習（インターンシップ）を履修した人にお聞きします。（教育インターンシップも含みます）卒業後の進路を決める上で役立ちましたか。

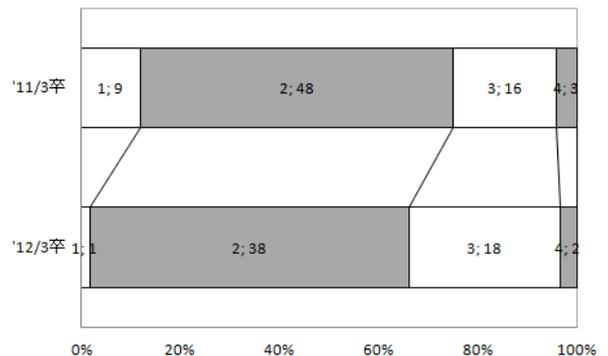
1. 役立った
2. どちらとも言えない
3. ほとんど役立たなかった



回答が 3 名分しかなく、明確なことは言えない。ただし、「役立った」という回答がなかったことについては、今後対応を検討する必要がある。

(C8) 就職相談・キャリア支援の体制および情報には満足でしたか。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である



「満足である」の割合が下がっている。今後も推移を見守る必要があるだろう。

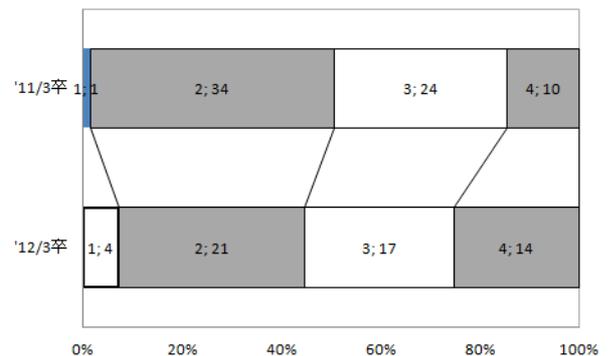
(C3) ~ (C8) に関する自由記述：

- (C5)院生で就職活動を行ったので、単位を取るために授業に拘束されることは少なく自由に活動できたが、学部生はつらそうだと感じた。
- C8,C5 キャリア支援のイベントが講義と被るので。
- C8,については全く利用してないのでわかりません。
- C8, 就活に関する情報を大学院生にもしっかり流すべきである。知らなかったために、セミナーに行けなかったなど、チャンスを棒に振ってしまう人が非常に多い。
- 学部長推薦はもっと多くの人に知らせた方がよいと思う。キャリア支援体制では、少し情報におどらされる感じがあった。
- 就職相談など、一般的なことしか言われず、個人個人に対してどうしたらよいのか、というアドバイスがなかった。
- キャリア支援の方々はとても親切であった為、相談しやすかったです。
- C8:不満でも満足でもありません。
- C6:教授推薦を利用した。
- (C1)現時点で未定
- ゼミや中間報告等で人前で話す機会が多く、面接で役に立った。専門的な知識は必要であるが、このような力も絶対必要だと感じている。
- (C8)余り参考にならなかった。面接のテンプレートを教わるのみだった。

熊本大学理学部理学科を卒業した人にお聞きします（該当しない学生は (D1) に進んで下さい）.

(C9) 就職活動で数学・理科の専門基礎を幅広く学んだことが役に立ちましたか.

1. 採用の決め手となった
2. ある程度役にたった
3. どちらもといえない
4. 役に立たなかった



「採用の決め手となった」は 4 名だけであるが、「ある程度役にたった」までいれると 4 割あり、ある程度の評価を受けている。今後も調査を継続する必要がある。

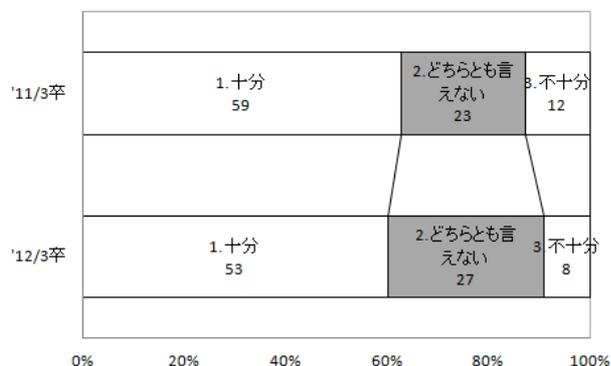
(C9) に関する自由記述：

- 専門分野に関して企業が興味を示してくれたので。
- 化学専攻推薦の枠に挑戦することが出来たため
- 化学だけ役に立った。基本的に人間重視の採用のため、化学の知識のみで十分であった。
- 就職先は化学（自分の専門分野）ではなかったから。

D. 学習環境や学生生活について

(D1) 自主的に学習できる場所や施設は十分ですか。必要なものがあれば「自由記述」に挙げて下さい。

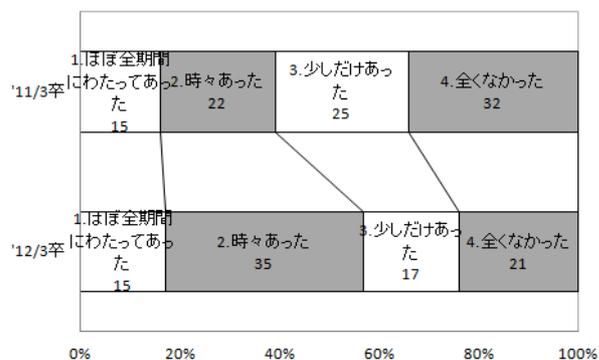
1. 十分
2. どちらとも言えない
3. 不十分



「十分」が6割であるが、「どちらとも言えない」や「不十分」も多い。自由記述では24時間学習できる図書館などが挙げられている。

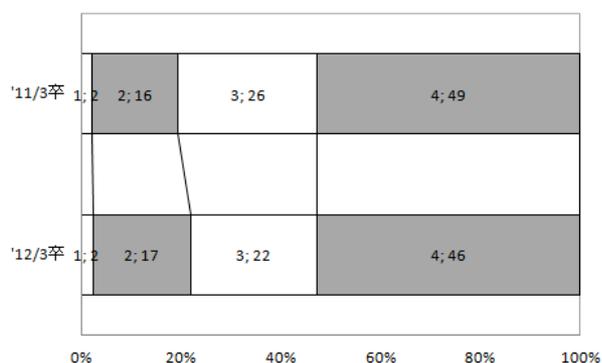
(D2) 在学中は、学生生活を続けていく上で、経済的な問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった



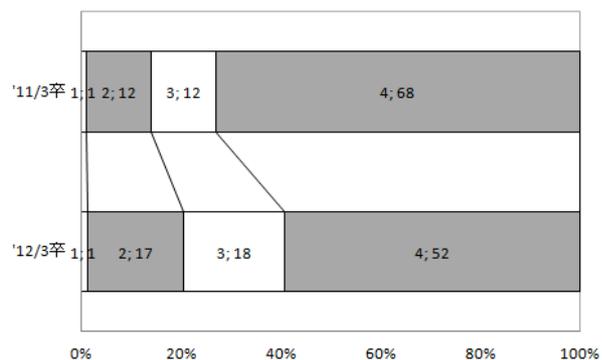
(D3) 在学中は、教員や学生との人間関係で問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった



(D4) 在学中は、住居の条件や環境に問題がありましたか。

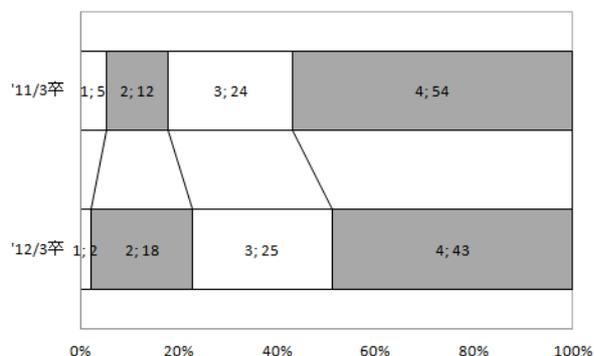
1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった



経済的な問題が「時々あった」とする院生の割合が増えたことは、今後注意すべきだと思われる。経済状況も影響していると思われるが、経済的な支援の検討が重要である。また、人間関係の問題も半数が問題があったとしている。対応する窓口の周知などさらなる対応の充実が求められる。住居・環境については上記2つよりは少ないが2割で問題が「時々あった」としており、対応策が必要かもしれない。「ときどきあった」というのは収入に月別のでこぼこがあるということであろう。

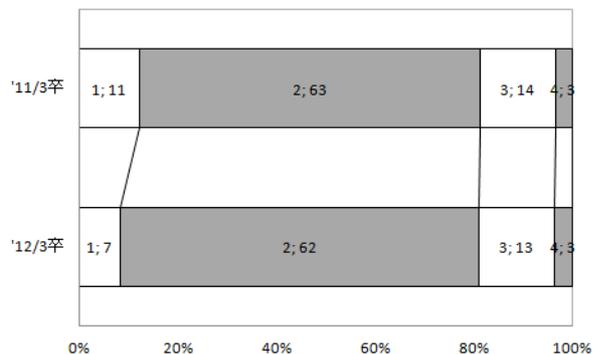
(D5) 学生生活を続けていく上で健康面に問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった



(D6) 健康相談の体制には満足できましたか。

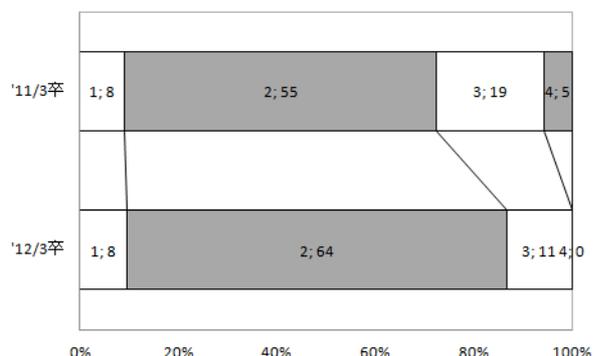
1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である



健康面に問題が「時々あった」院生の割合が2割いる。相談体制に関しては、「満足」している院生が8割を超えており、現状の満足度は高い。

(D7) 各種ハラスメント相談の体制には満足できましたか。

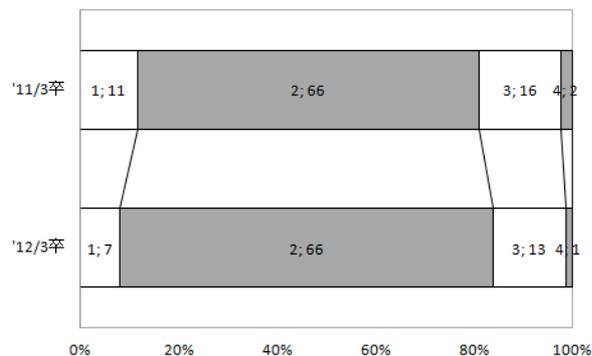
1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である



「満足である」が8割を占める多数となっている。

(D8) 授業・学習支援・生活支援を含む熊本大学の学習環境全体の満足度についてお聞きします。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である



環境全体に関する満足度も高く、8割を越えている。残りの2割にどのような不満があるのか、今後の調査が必要かもしれない。

(D1) ~ (D8) に関する自由記述：

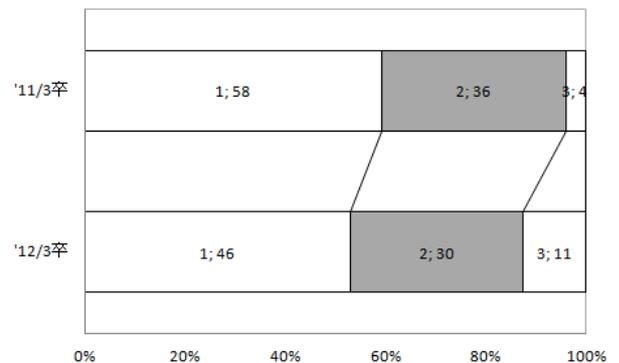
- 24時間研究室に在室できる環境は大変ありがたい。
- 就寝できる場所、環境が公的にあれば助かる
- D1,理学部の講義室、閲覧室を自習室に使っている学部生がいますが、使用後が汚いし、他学部の学生も利用させています。取り決めをしないと危ないと思います。
- D2,調査において、コピー機等の手続のみで、学割証明を10枚以上使用させて頂きました。
- D4,引越しの為に大学に来れる回数が減ってしまいました。D7,ハラスメントを受けてないのでわかりません。
- テストが返却されない場合が、教養などではあったので何処が評価されたかわからない。学習は単位をとるためだけに行われるものではないと思うので、その後のフィードバックを得られるように何処がいけなかったのかをわかるようにしていただきたい。
- 各研究室にもよると思うが、教授、助教の立場に関係なく、教員の教育体制があるのか気になった。勉強できる場所や施設は十分にあると思う。
- 図書館など席がたりない(試験期間になると)
- 理学部/自然科学研究科 専用の小さい図書館(専門書の貸出し有り)があれば、専門科目の学習意欲も上がったと思う。
- D6,D7については体制について理解出来ていないため未回答です。
- 自習室少ない
- 自主学習できる場所はあるのかもしれないが、図書館、学習部屋(大教センター)くらいしか知らないで、テスト前だけでも良いのでしらせて欲しい。
- (D7)利用していないので不明(D8)授業料免除など、対応の不手際がかなり目立つ、基準もあいまい、成績をもっと重視すべき。
- (D1)24時間図書館
- 24時間学習できる教室が欲しいです

E. 授業改善アンケートおよびシラバスについて

大学院の授業に関するシラバスについてお聞きします。

(E1) 履修する科目を選択する際にシラバスは役立ちましたか。

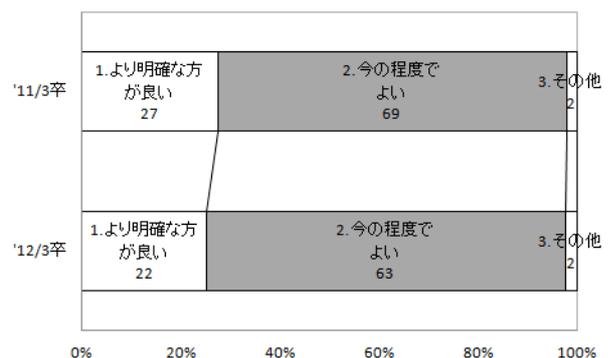
1. 役立った
2. どちらとも言えない
3. ほとんど役立たなかった



シラバスが「役立った」とするものが5割となっている。大学院の授業においてもある程度シラバスが利用されていることがわかるが、一方半分は「どちらとも言えない」もしくは「役立たなかった」としており、今後も改善が必要である。読んでいるかどうかという質問も必要かもしれない。

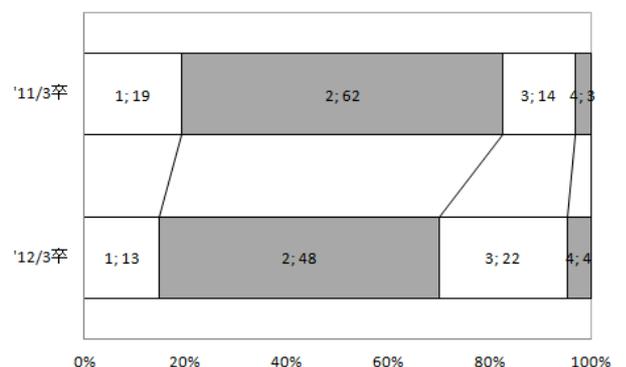
(E2) シラバスの成績評価の方法はもっと明確なものが良いですか。

1. より明確な方が良い
2. 今の程度でよい
3. その他



(E3) 全体的に、シラバスに記載された方法で厳格な成績評価が行われていると思いますか。

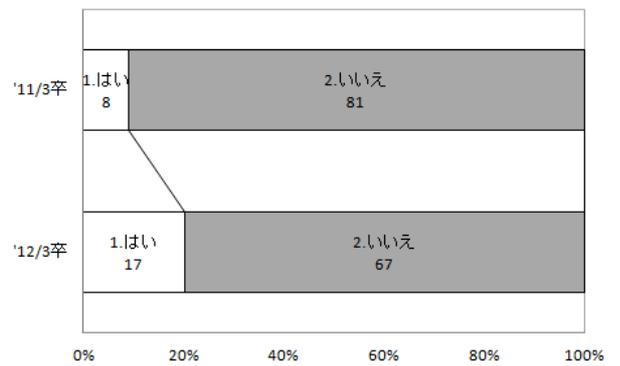
1. 行われている
2. 多くの科目で行われている
3. あまり行われていない
4. その他



(E2)では「今の程度でよい」が7割を超えており、(E3)では厳格な成績評価が多くの科目で行われているという評価である。大学院の授業の成績評価であるので、成績に対する院生の意識がどの程度であるかを検討する必要があるだろう。

(E6) Web 上での教員のコメントは読みましたか.

1. はい 2. いいえ



教員のコメントはほとんど読まれていないことがわかる。この割合はシステム的な問題としてとらえるべきだと考えられる。

(E4) ~ (E6) に関する自由記述 :

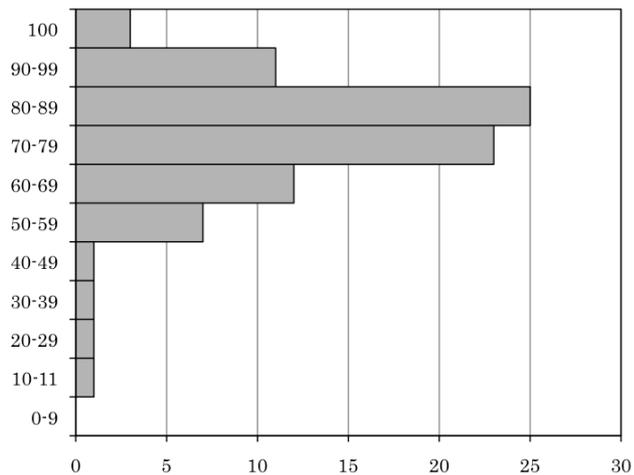
- 受講生が少ないので匿名性の意味がない アンケート回答を促す講義もない
- 紙のムダだと思います。先生は改善してません。
- Web 上でなく、簡単に、パッとすぐみられる所に教員のコメントを提示してほしい。

F. 総合評価

理学専攻に対する評価をお聞きします。

(F1) あなたの理学専攻に対する評価・満足度を 100 点満点で点数をつけて下さい。

点数：(回答数 85 件)

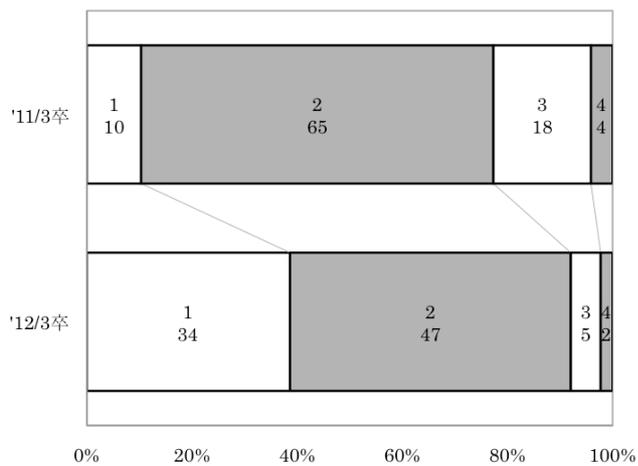


80-89 点をピークとしており、概ね満足していると感じる院生が多いことがわかる。

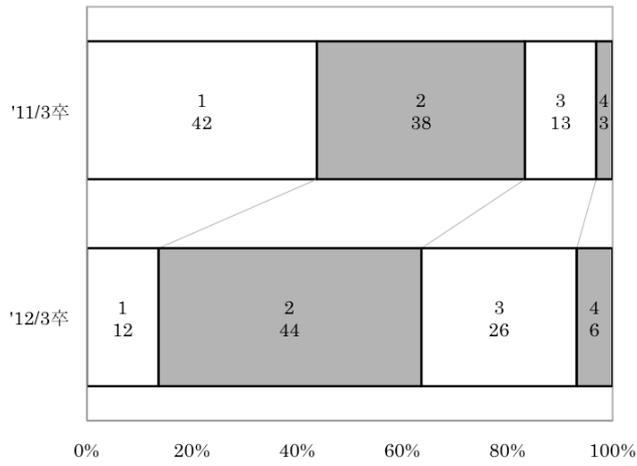
(F2) 理学専攻の評価項目に関して次の 4 段階で回答して下さい。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

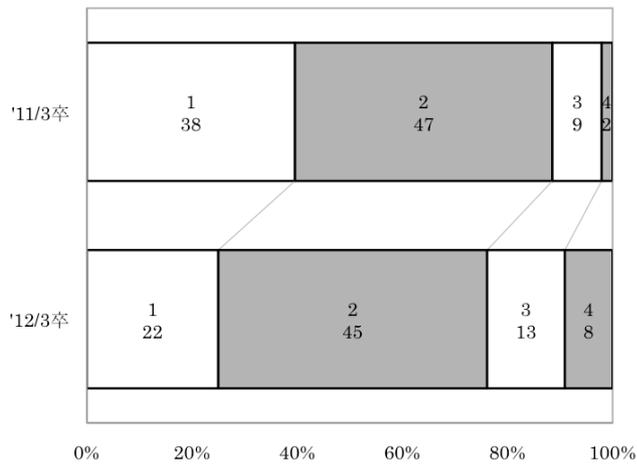
a. 授業科目の開設状況：



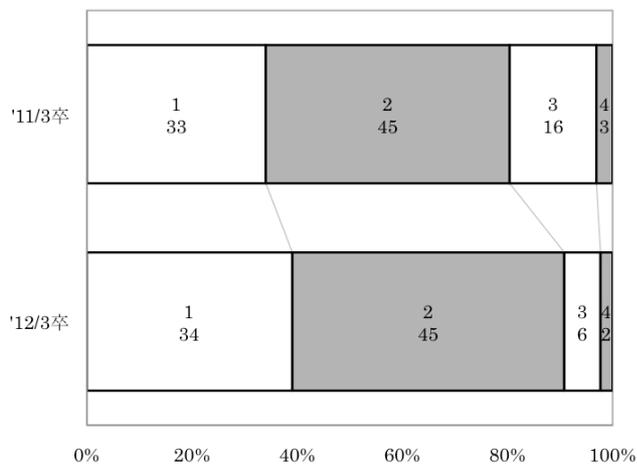
b. 修論等の指導 :



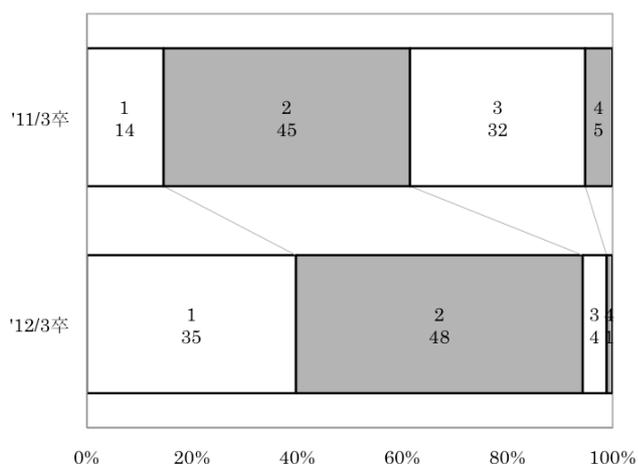
c. 研究室等での人間関係 :



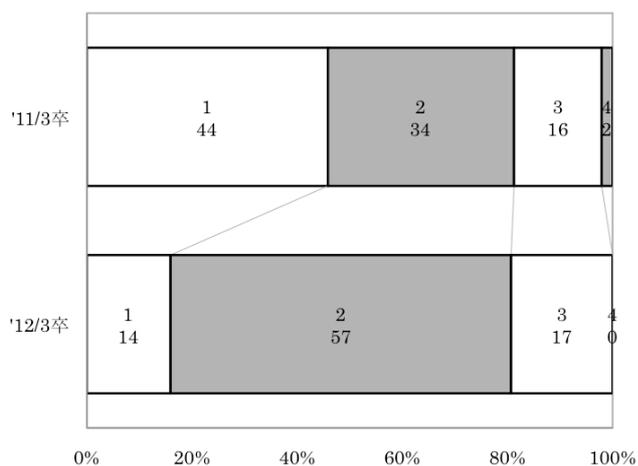
d. 施設や図書等の勉学環境 :



e. 国際交流：



f. 教職員等の熱意・対応態度等：



昨年度と比較すると、授業科目の開設状況、勉学環境、国際交流の満足度が大幅にアップしている一方、修論等の指導、研究室での人間関係が低下している。また、教員の熱意・対応については、「大いに満足」がかなり減少している。これがこの年度に特有の傾向なのかどうかは今後もアンケート活動を通じて明らかにしていく必要があるだろう。

(F1) ～ (F2) に関する自由記述：

- 理学科の良さを活かした理学専攻という一にありつづけてほしい…です。
- 英語の授業はもっと増やした方がいいです。週一は定着しないです。 設備不足で月2～3回九大に行っていました。ということで-25点。
- F1,先生に対する学生の数も少なく、指導を受ける側としてとても良かった。また、同じ学年、先輩、先生、全員わかるので地球の他の分野の人の研究にも触れることができ、様々な話を聞いた。

- F2,あまり交流できなかつたが特に興味がなかつたという意味で選んだ。
- 計算機が支給されていない。不用品のパソコンと複合機を使っていた。
- F2-e, 今後、英語力は必須となるために、もっと国際交流のチャンスを提供してほしい。英語力を挙げる授業をさらに開講してほしい。
- 先述した勉学環境について改善を期待しています。
- お世話になりました。ありがとうございました。
- アンケートが長すぎて、途中からみんなてきと一だと思う。なぜ、この紙が上質なのかなぞです。
- 評価は、それぞれが入った研究室での状況や生活環境に依存しているため、自分の自由な時間が多ければ or 満足いく環境であれば高得点だし、逆に不満やストレスが多ければ、点数は低くなっていると思う。
- 特に学部3年からの研究については、熱心に御指導いただき様々な経験をすることができました。本当に感謝しております。
- (F1)学部では35点